

熊来す氏モリフジ

知事と懇談

午後、河内町で歓迎式典

と懇談、続いて県と河内町主催による歓迎祝賀会(国会議員、経済界代表、河内町代表約四百人参加)に出席、午後、河内町に向かう。フジモリ氏は河内の故郷、河内町白浜に到着するのは午後一時半ごろ。まず母ムツエさんの実家である、おじの井元富也さん(自宅を訪れ親類と歓談)、大統領官選報告した後、町観光物産センター前で記念植樹、河内小で行われる町の歓迎式典に出席する。町では三日午後会場設営や、新たに用意した歓迎の横断幕など、最終準備を行った。このほかペルー国旗の小旗五百本も新調、フジモリ氏が通る沿道の町民に配る。歓迎式典で贈る同町第一号の名誉町民証(肥後県監製)も出来上がった。「おとは天気を持ち直していただけるように祈っています」と準備に追われる町職員。

「謙也、謙也」と呼んで若き日のフジモリ氏が来日するたびに面会を見てきた井元さんも十八年ぶりに、思いもかけなかった次期大統領として訪れるオイのたみに、特別に「おおきの米を精米するなどして再会を心待ちにしている。」

県もスペイン語、英語の通訳との打ち合わせを行う。フジモリ氏は、熊本空港から熊本市のニュースカイホテルに向かい、細川知事の

藤森ムツエさん聞き書き

ペルーに半世紀以上暮らして、旅行も随分されましたが、藤森 私はあれ(フジモリ氏)と約束して、一年に二回ずつ、その暇をもらってから、週間ずつ旅行に行きよかったです。前はテロリストがおらん時はよく行ったです。クスコ(インカ帝国の都)もアレキバ(ペルー第一の都市)もスペインの植民都市にも。

○一人旅も平気

ペルーはインカの遺跡が多いですものね。藤森 そつ、私はインカが好きで、チャビンにもカマルカにも、一人で行きました。

チャビンもカマルカもインカ文明の遺跡で有名だ。チャビンはプレ・インカ文明の中心を成し、リマの北方約三百、アマゾン

大統領の母

海を渡って56年

河の源流部に荘重な神殿が残っている。またペルー北部山脈にあるカマルカは、インカ最後の皇帝アタワルパが一五三二年、スペインの征服者ピサロと会見し、のち処刑された歴史的名所として知られる。皇帝が

閉鎖された部屋は現在も史跡として残されている。チャビンもカマルカも日本の考古学調査団が調査を行っている。

こっそり日本へ帰ります



1967年、熊本に里帰りしたムツエさんと直一氏。親類の子供さんと

ハリエンテ(日本女性)は、つてのう。以前はよく行きつてのう。この騒ぎでダメになりました。今、帰ると迷惑かけるけん。

○足のたつ間に

「アルベルトさんと一緒にはいつてもいいですけど、(は)い。仕事はできんかったけんどのう、自分で歩いて、飯もメサテ(ブル)で食べるもんだから助かった。死ぬる前に二カ月、寝たきりになったけどした。

「直一さんとムツエさんが一緒に日本を訪れた最後は一九六七年。長女フアナさんがいなくなると、ムツエさんは体の不自由になった直一さんに、もう一度、故郷へ熊本を見せたいと願ったという。

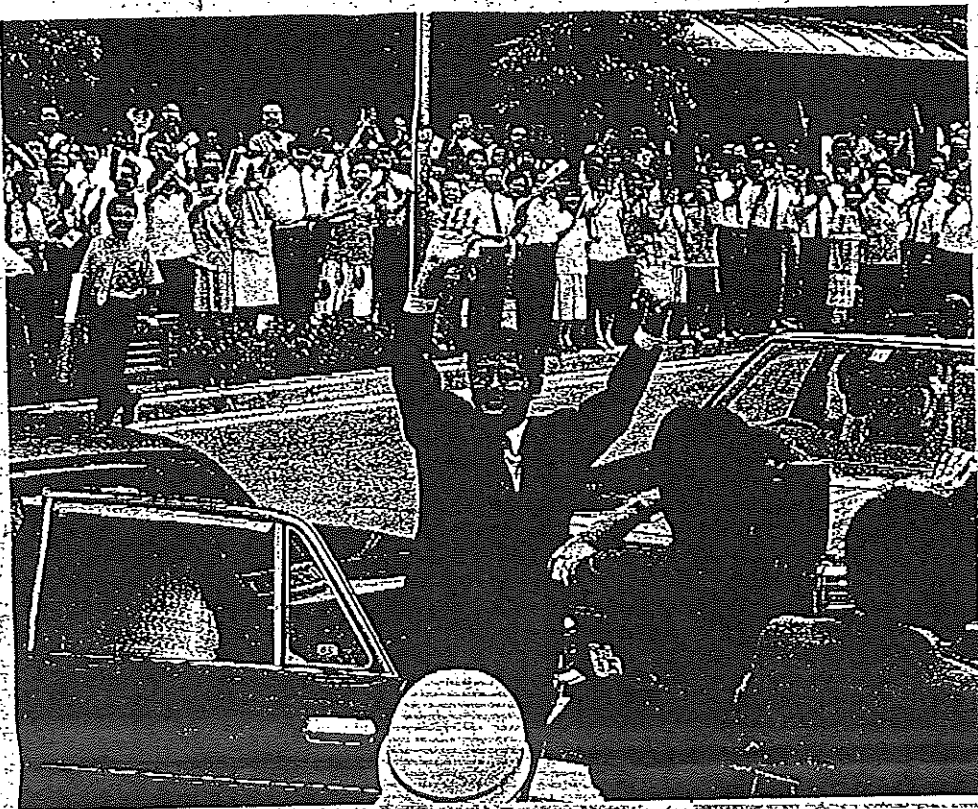
「日本は今度、いつ行かれる予定ですか。藤森 本当はこの三月に

の最終作業に入った。空港に到着してから、同日県警は、夏田新一警備部午後六時二十五分同空港を長を本部長に熊本南、東署 出発するまで、身辺の警護も含めた八十人で警備本部にあたる。フジモリ氏が熊本

フジモリ次期大統領(ベル)来熊

両親の出身地 河内町で歓迎式典

ようこそプレゼンテ



県庁前で車を降り、沿道の歓迎にこたえるアルベルト・フジモリ氏(4日午前10時5分)

日本人として初めて大統領に就任するベルのアルベルト・フジモリ氏(4日午前10時5分)が九時半すぎ、熊本空港着の空港では細川知事や北里のみなさん、機内後河内町

長など河内町の歓迎団約百人がベルの旗を手に「ようこそプレゼンテ(大統領)と歓迎。感激の対面をした。来熊したのは妹のロサ・フジモリさん(ルイス・マキアロ駐日大使夫妻、妹尾正毅駐ベル日大使、外務省職員ら七人。ベルの新聞、テレビ、通信社から八人が同行した。フジモリ氏は、県庁前などの沿道で市民の歓迎を受けながら熊本市のニュースカイホテルに向かい、午前十一時前から細川知事と懇談。知事が「そのうまで県

下は大雨で大変でしたが、今日は非常にお天気になって」と言うと、フジモリ氏は「私は運がいいんです。いつも運がついてきます。仕事にも自信を持っており、日本のやり方を聞いていけば、国づくりも成功できると思う」とにややかな表情で答えた。

知事は「県としても大変栄誉なこと。大統領のベル一再建を県としても側面的に支援したい」と発言。①知事が発起人の「フジモリ・ベル支援の会」を創設し、全国的な募金活動により、ベルの子供たちに奨学金を贈るなど総合的に支援していくの県の海外技術研修員の受け入れ枠を拡充し、ベルから積極的に受け入れる」などを提案。フジモリ氏は「私は熊本県人です。熊本は二番目の古里。ありがとうございます」とお礼を述べた。

午後二時からの県と河内町主催の歓迎祝賀会には、県内の各界から代表四百人が出席。主催者の細川知事と述べた。

フジモリ氏は午後、河内町に向かい、母ムツエさんや父直一さん、故△の実家などを訪問。町観光物産センター前で記念植樹や河内小である歓迎式典に出席し、午後六時二十五分発の全日空機で東京に向かう。

平成2年(1990年)7月4日

水曜日

ペルー再建へ官民募金

「フジモリ基金」を提唱

きょう 知事提案 技術研修生枠も拡充

ペルーの次期大統領に決まったアルベルト・フジモリ氏(五)が四日前、両親の故郷訪問のため来熊するが、県はフジモリ氏のペルー再建を全面的に支援するため「ペルー・フジモリ支援基金」(仮称)を創設するほか、県が開発途上国から受け入れている「海外技術研修員」の受け入れ枠を拡充し、ペルーから積極的に受け入れる方針を決めた。

細川知事が四日前、熊本市のホテルでフジモリ氏と懇談する際、提案する。「ペルー・フジモリ支援基金」は、県とフジモリ氏の両親の出身地の飽託郡河内町、県内の各種団体が中心となり、全国を対象にペルーの経済再建の一助に、た募金を呼び掛ける。募金の使用方法については、フジモリ氏の考えを聞いて検討していく。

海外技術研修員制度は、東南アジアや、県からの移住者の子孫が多い南米を中心に一年間、研修員を受け入れ、県の公的機関や民間企業で技術取得してもらおう制度。これまでペルーから一人受け入れたことはあるが、二日、ペルーの経済再建

支援のため、早急に経済技術の専門家で構成する調査団を派遣する方針を打ち出している。

フジモリ氏の記念館を建設

空手の松濤館寄贈
南米ペルーの次期大統領アルベルト・フジモリ氏と日本の空手流派「国際松濤館」(本部東京都新宿区)との間で三日、同館が首都リマに武道館「フジモリ記念館」(仮称)を建設、寄贈することが決まった。

同日朝、金沢弘和松濤館館長がフジモリ氏に空手道名譽八段位の称号を贈った際、申し入れた。最近ペルー

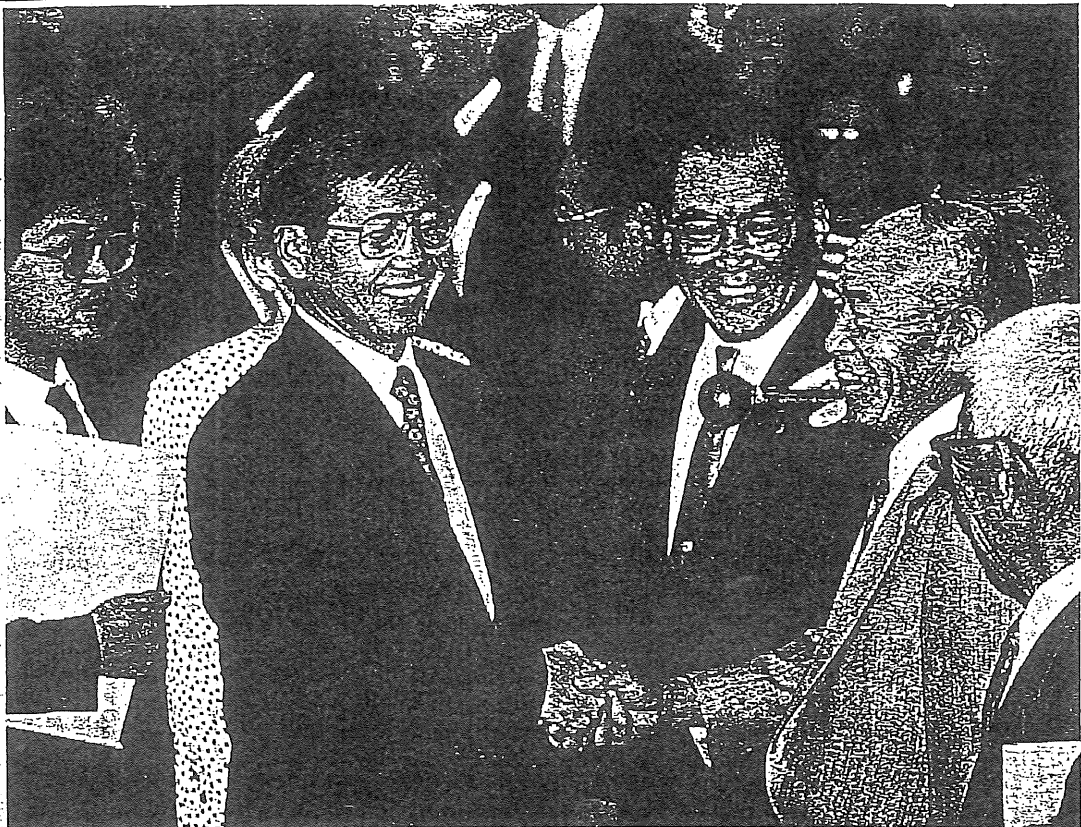
では、青少年の非行が問題になっており、武道を通して子供たちの健全育成を図るのが目的。こと十月ごろ着工、来年八月には千人が同時に空手の練習ができる武道館(床面積約三千三百平方メートル)がオープンする。

今回の武道館寄贈は、松濤館最高顧問で同館後援会世話役の会社社長猪俣昭人さんが、東京都渋谷区、下盤城郡富合町出身だが、フジモリ氏と同じ熊本県出身だったのがきっかけ。同

武蔵館の建設費として一億円を集めた。

「さんの役に立ちたい」と後援会メンバーに呼び掛け

井元富也さん(右から二人目)南重輝さん(同一人目)ら親族と握手するルベルト・フジモリ氏(4日午前9時40分すぎ、熊本空港で)



お帰り フジモリ大統領

ふるさと興奮

河内の親戚がっちり握手

大統領がふるさとに帰ってきた。両親が飽託郡河内町出身の移民で、南米ペルーで世界初の日系人大統領に選ばれたルベルト・フジモリ氏(左)が四日前、空路熊本入りした。熊本空港では河内町の親戚で出迎え、ミカンの里からすい星のように国際政治の舞台におどり出た。おちが大統領を祝福、フジモリ氏は今までの温かい歓迎に、終始笑顔が絶えなかった。(一面写真)

この日は前日までの豪雨(び)にやかな表情でロビもあがり、青空がそく天(一)に姿を見せると拍手が起(二)気。空港二階のロビーでは、こ(三)った。後ろには秘書で妹朝早くからバスを任立てて(四)駆けつけたおじの井元富也(五)さん(父)や南重輝さん(父)を(六)はじめる。この藤森不(七)二天さん(父)ら河内町の約(八)百人が「歓迎、フジモリ次(九)期ペルー大統領」の横断幕(十)を掲げ、ペルー国旗の小旗(十一)を手に、フジモリ氏を待ち(十二)兼ねて興奮気味。

予定より十五分遅れて午(一)前九時四十分、ゲークラス(二)に髪を七三に分けたフ(三)ジモリ氏が右手を高く掲(四)げ、二天さん(父)と手を

掛けた。井元さんは「實縁がつい(一)た。総理大臣は比べられ(二)ないが、よき大統領には(三)ひげを(四)つなぐ」。藤森(五)さんは「名前を覚えてもらっ(六)ていてうれしい。思ったよ(七)り柔かい手でした」と感(八)敬していた。

一行の周りには大きな人

垣ができて、身動きができ(一)ないほど。「熊本県人の血(二)が流れている人かと思っ(三)た。フジモリ氏の来熊は昭和(四)四十六年、四十八年に次(五)いで三度目だが、今回は次(六)期ペルー大統領としての「凱(七)領のお国入りを喜ぶ熱意に(八)包まれた。」

空港から熊本市のニュー(一)スカイホテルに向かう沿道(二)も、「シシレラボーイ」(三)を一目見ようと、県庁と市(四)役所前でペルー国旗の小旗(五)を振る歓迎の人垣ができ(六)た。県庁前では、信守待(七)ちの間、フジモリ氏が車から(八)降り、市民らと握手して歓(九)迎した。フジモリ・スマ(十)イル」をかりまいていた。

熊日 7月4日(水)

熊日 7月5日 (木)

父祖の地...快晴そして熱狂

河内入りのフジモリさん



精め掛けた親類や地元の人たちと乾杯するアルベルト・フジモリ氏 (4日午後2時25分すぎ、河内町血浜の井元さん宅で)

親類に囲まれ家族の味

「思い出胸に頑張りたい」

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

「アルベルト」は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。フジモリ氏は、河内町血浜の井元さん宅で、親類や地元の人たちと乾杯する。

熊本大学4年の池上さん

熊本県御船町・9千万年前の地層

複数は西日本で初

熊本県御船町に広がる9千万年前の地層。この地層には、西日本では初めて複数見つかった化石が確認された。熊本大学地質学部の池上さん（4年）が、この地層から、西日本では初めて複数見つかった化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。



熊本大学地質学部の池上さん（4年）が、この地層から、西日本では初めて複数見つかった化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。

熊本大学地質学部の池上さん（4年）が、この地層から、西日本では初めて複数見つかった化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。この化石は、西日本では初めて複数見つかった化石と判明した。池上さんは、この化石を採取した。



熊本の「実可ちゃん助ける会」 使途不明100万円

被 害 届

熊本県御船町の「実可ちゃん助ける会」が、今年4月の熊本市の地産物販売促進費（約100万円）のうち、約100万円が使途不明と判明した。関係者は、この100万円の使途不明について、関係機関に被害届を提出した。

熊本県御船町の「実可ちゃん助ける会」が、今年4月の熊本市の地産物販売促進費（約100万円）のうち、約100万円が使途不明と判明した。関係者は、この100万円の使途不明について、関係機関に被害届を提出した。関係者は、この100万円の使途不明について、関係機関に被害届を提出した。関係者は、この100万円の使途不明について、関係機関に被害届を提出した。

ペルーと日本の架け橋に

熊本 商親の故郷訪問

熊本の熊本商親（1870-1940）の故郷訪問。熊本商親は、ペルーと日本の架け橋として活躍した。熊本商親の故郷訪問は、熊本の歴史とペルーとの関係を再確認する機会となった。熊本商親の故郷訪問は、熊本の歴史とペルーとの関係を再確認する機会となった。熊本商親の故郷訪問は、熊本の歴史とペルーとの関係を再確認する機会となった。

